

氏名	村 上 正 和		
学位(専攻分野)	博 士(医 学)		
学位授与番号	博 乙 第 2518 号		
学位授与の日付	平成 4 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	乳癌サーモグラフィ所見と予後の検討；サーモグラフィにおける 温度上昇と血管構築の変化		
論文審査委員	教授 折田 薫三	教授 平木 祥夫	教授 村上 宅郎

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

臨床病期Ⅰ～Ⅲの乳癌切除症例191例を対象として得られた種々のサーモグラフィ所見の中で予後と最も関係の深い所見を抽出し、これらが癌の進行度だけでなく悪性度をも反映するものか否かについて健存率より検討した。その結果、サーモグラフィ所見の中で最も予後を反映すると思われるものは定性的な「高温所見」よりも定量的な「温度差」の所見であった。また、同一の組織学的病期の症例であっても高温度差群は低温度差群に比して健存率が不良の傾向が認められた。以上より、サーモグラフィ所見は、腫瘍の進行度のみならず悪性度にも関連すると考えられた。

さらに、75例の乳癌切除標本より、腫瘍、腫瘍周辺および皮膚における血管構築を解析しサーモグラフィで得られた温度差と比較した。その結果、皮膚における血管構築の変化と温度差とは相関が認められた。このことより、サーモグラフィの異常所見は皮膚血流の程度に強く影響をうけており、この血流の増加が乳癌の悪性度を規制する1因子あることが示唆された。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

サーモグラフィは体表近くの病変を皮膚温の異常としてとらえる診断法である。本研究者は乳癌191例を対象として患側の皮膚温が健側のそれより1.5℃以上高い場合、予後の悪いことをまず明らかとし、ついで75例の乳癌切除標本の腫瘍内部、周辺部、腫瘍直上の皮膚の単位面積当りの血管面積を算出し、温度差は皮膚の血管面積とのみ相関し、皮膚血流

の増加が乳癌の悪性度を定める 1 因子であることをみている。臨床上、極めて価値ある新  
知見であり、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があることを認める。